

2027年国際園芸博覧会基本計画案 意見募集実施結果について

1 実施期間

2022年7月26日（火）から8月24日（水）まで

2 実施結果の概要

(1) 意見総数

387件（投稿数：299通）

意見の分類	意見数
全体概要（自然環境の保全、来場者数等）	111件
事業構成（事業コンテンツ、庭園・展示等）	47件
参加計画	10件
会場計画	48件
運営計画（植物監理、会場運営等）	23件
輸送計画（交通渋滞対策、アクセス強化等）	52件
コミュニケーション計画	19件
レガシー計画	22件
資金計画	21件
リスク管理計画	4件
推進体制	2件
その他（市政、意見募集等）	28件

(2) 回答者の内訳

性別	
男	162
女	94
不明	43

年代別	
10代	1
20代	9
30代	46
40代	60
50代	75
60代	55
70代	21
80代	4
不明	28

市町村	
横浜市	205
川崎市	2
海老名市	2
鎌倉市	1
茅ヶ崎市	1
三浦市	1
秦野市	1
湯河原町	1
藤沢市	2
平塚市	22
神奈川県以外	30
不明	31

(3) 主な意見の例

ア 【会場での取組について】 43 件

- ・ 体験型のエリアを多くしてほしい。大人も子供も楽しめるアトラクションを期待する。
- ・ 最先端技術を採用した資源の循環を体現した取組を実施してほしい。
- ・ 会場エリアは市内でも昆虫や植物の宝庫であり、在来の生き物サンクチュアリーを区域として設けて欲しい。
- ・ 園芸博覧会であるのだから、暑さ対策の主役は植物であるべき。木陰を十分に作ることや、多様なグリーンカーテンや施設の壁面緑化などに力を注ぐべき。

イ 【自然環境の保全について】 37 件

- ・ 計画段階から、地域の自然地形、それを形成している樹木などをできるだけ活かした会場づくりをすべき。
- ・ 横浜・瀬谷の海軍道路の桜並木の伐採は花博の趣旨 SDG s に反し、多くの市民が親しんできた貴重な自然環境を破壊するもので反対。旧上瀬谷通信施設跡地の現在の自然環境を保全し、上瀬谷の豊かな自然を生かしたまちづくりをすべき。
- ・ 川を暗渠化し谷戸を埋め立て、そこに生きる動植物の生息環境を奪い、種の多様性を喪失させ、庭園を作ることが持続可能な街づくりの姿なのか疑問である。

ウ 【事業コンテンツについて】 25 件

- ・ 自然をテクノロジーで表現するプログラムは、例えば日中に会場全体にかかる大きな虹を創出したり、夜は花をテーマにしたイルミネーションを充実させ、昼と夜両方を楽しめるコンテンツを作る必要がある。
- ・ 一過性で終わらない、体験やプロセスを重視したワークショップが出来ると良い。(蚕、コンポスト、押し花、野点)

エ 【交通渋滞対策について】 25 件

- ・ 会場付近の道路は一車線しかなく、現在でも渋滞しているところが多い。周辺住民の生活に支障のないよう、会場周辺の一般道路も計画的に整備してほしい。
- ・ 輸送計画については地域の方の理解を得ながら検討を進めてほしい。

オ 【来場者数について】 22 件

- ・ 有料入場者数 1000 万人を可能とする根拠が薄く、過大である。
- ・ 開催期間が 3 月～9 月の半年とのことであるが、本日も猛暑日予報、期間中の三分の一が 7 月 8 月、これだけの入場者数が見込めると思えない。

カ 【庭園・展示について】 22 件

- ・ 一時たりとも花を絶やさない。会場全体がガーデンネックレス状態になってこそ横浜の庭です。
- ・ 季節の花だけでなく、日本各地の花が見られるように植栽を行う。北海道から沖縄まで、その土地特有の植物が見られるようにする(期間限定でいい)。
- ・ どんな植物を見せてくれるのか、具体的なことを書くべきです。つまらないお土産屋ではなく、花と緑を満喫させて下さい。全国、全世界に花と緑を好きな人はたくさんいます。こんな世相だからこそその博覧会にして下さい。家族で楽しみたいと思います。

キ 【レガシー計画について】 22 件

- ・ 博覧会後も緑豊かな景色が広がっているとよいと思います。
- ・ 植物の保護、維持のコストを考えると宿根草等を使ったガーデンを見てみたいのです。